

平成 27 年度 学校関係者評価報告書

学校法人中村学園
静岡福祉医療専門学校
自己点検・学校評価推進室

公益社団法人静岡県職業教育振興会による「静岡県版ガイドライン」をベースにして本学独自の自己点検・評価を実施し、まとめた平成 28 年 3 月 10 日付「自己点検・評価報告書」を元に、学校関係者評価を行いました。

なお、下記の一部の項目についてはすでに改善のための方策を実施しております。

平成 27 年度学校関係者評価委員及び事務局

<関連団体>

鳥羽 茂氏 特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会 事務局長

<病院関係>

柳田 和夫氏 医療法人社団 和絃会 やなぎだ眼科医院 院長
(代理) 仲本 和弘氏 同 事務局長

<卒業生>

川崎 誠之氏 社会福祉法人 駿河会 特別養護老人ホーム晃の園 相談員兼ケアマネジャー
樽林 崇氏 社会福祉法人 清水福祉会 特別養護老人ホーム柏尾の里 生活相談員・社会福祉士

<事務局：本学教員>

中村 徹 理事長・校長
有賀 浩 教頭・教育部長
中村 健太郎 教育改革推進室長代理
富田 順子 教務課長・医療情報秘書科 学科長
後藤 明子 子ども心理学科 学科長
磯野 博 総合福祉学科 学科長
三嶋 秀子 介護福祉学科 学科長

1. 教育理念・目標

【現状と問題点】

・ホームルーム教室に教育理念・目標・育成人材像について明文化、文章化したものを掲示している。また、入学者に対する入学事前指導等で、建学の精神・校訓・教育の理念の理解を入学前の課題とし、導入教育にて将来像を明確に示している。

・現場での実習、ボランティア等を通して、各学科で目指す職種やそのやりがいを理解し、自分自身が働くことを意識し、その意義を考える機会としている。

・常に教員自らが校訓と「建学の精神」、そして創設者が残してくださった「激」を顧みて「挨拶を基調とした全人教育」にあたっている。実習先からの評価においても、挨拶や身だしなみ等の基本的な社会人としてのマナーについて、ほとんどの

	<p>学生が高い評価をいただいた。一方で、学生の社会人基礎力において際立って低い学生も見られ、指摘を受ける場面があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から他人に対する思いやりの心を持って生活することを指導しているが、一部思いやりを感じられない言動や行動を取る学生も見られる。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学生生活において学生が理解できる言い方で指導していくことに加え、新たに導入する「社会人基礎力」、「職業とキャリア」の授業を有効に活用し、改善を図る。 ・学生指導指針である「学生の手引き」を教員自身が十分理解した上で教育活動を行う。 ・日頃から挨拶、清掃（学びの環境を自らの手で整理する）指導を徹底する。 ・業界ニーズと学生のギャップを把握し、その差を埋められるよう指導を強化する。 ・現場実習やボランティアの機会において現場から直接フィードバックをいただき、学生指導に役立てる。 ・教員自らが思いやりを持って生活できているかを問いただす必要がある。そして、学生に、常日頃から道徳的な考えを持つことを生活の中で伝える。 <p>子ども心理学科において、道徳科目を平成 28 年度より試験的にゼミナール等の授業の中で導入し、その効果を検証する。</p>
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・「職業とキャリア」「道徳」等の教科を通じて他者への思いやりを実感でき、自分のこととして感じられるような内容の教育を願う。 <p>人が生きることの逞しさが感じられるような、共感できるような内容で啓発してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創設者が残した「檄」を「重い言葉」として仕事の糧として頂きたい。 ・職場での位置を高めていくビジョンを描けるような人材の育成を求める。 ・卒業して 13 年が経過。挨拶を基調とした全人教育は今でも大切に仕事している。コミュニケーションの第一歩である「挨拶」ができ、更に人間性を高めることを大切にされていることを高く評価する。 ・基礎だけでなく、就職後はステップアップ、資格へのチャレンジを。そのサポートも母校に是非お願いしたい。
2. 教育活動	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不良者への個別指導を早い段階から行い、学習意欲の喪失から退学者を出さないように指導したが、目標とする退学率を下げるができなかった。 ・能力や人間性など、多様な学生に対応できるように「一人一人に合わせた教育」の実施に注力した。 ・必要とされる資格を取得し、永続的に医療現場で活躍できる人材の養成が実現できるカリキュラムに変更した。 ・検定合格に向けての対策プログラムを構築したことで、確実に合格率が向上している。 ・カリキュラム以外の各種地域活動に学年を越えて参加し、地域住民や関係団体から高い評価を得られた。 ・「読む」、「書く」、「話す」能力に格差が広がっており、実習、就職活動において入り口の段階から困難を抱える学生が増えてきている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も資格取得のための法定実習以外に、職場体験やボランティアの機会を多く取り入れた。外部活動の機会が増えたことで、学生の学びに対する考え方が変わり、参加後、各自が多くのことを得られていると評価している。 ・上級生においては、自らが学びたい内容を選び、活動計画を立て、参加し、文章としてまとめることを通して主体的な学びができた。蓄積された課外活動への参加が一つの効果として出た結果であると評価している。 ・上級生による課外活動において、学生自身に主体的に活動させたため、こちらのねらいに到達できなかった学生もあった。
<p>【改善のための方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退学理由を明確化し、その対応が的確にできるよう、教員自身の指導力を向上させるため、学内外での研修を強化する。 ・授業に幅広くアクティブラーニングの手法を取り入れ、各学年、クラスのカラールにより、展開方法を柔軟に変えていく。 ・個人面接の機会を増やし、成績不良者や進路に対して不安を持っている学生等に適切な対応ができるようにする。基礎学力の差や家庭環境など、入学以前の環境にも配慮しながら指導を行う。 ・授業アンケートを実施し、活用することで授業の問題点に対する課題提案や改善につなげる。 ・「読む」「書く」については、日々の授業の中で指導。「話す」ことについては、自分の考えを自分の言葉で伝えることができるよう、人前で話す機会をさらに増やす。基礎学力に関しては、B検3級、もしくは「社会人基礎力」認定試験の全員合格を目指す。 ・課外活動の事前事後指導を強化する。個別面談及び個別活動計画を早めに立てる。
<p>【関係者評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のうちから社会人としてどう成長するのか、キャリアパスを明確にしてあげること、良いスタートが切れるのでは。 ・先につながるような指導、関わりを。目先のことだけでなくキャリア形成の中で再入学等可能な体制作りを期待する。 ・家庭環境の差、負の連鎖から抜け出せるような経済的支援等、新たな奨学金制度への取り組みを評価したい。 ・「職業とキャリア」で夢を描けるように導いてほしい。 ・「読む、書く、話す」話す、が最も基本になり重要。一層きめ細かな指導を願う。 ・社会人になっても勉強しなければならないこと、を教えておいて欲しい。 ・本人の「やる気」仕事のやりがい、仕事の中身を明確にすることが肝要。 ・事例、やりがいを多く見せる 教える ・学生時代、ケアスタディー発表会が大変良い経験になった。人前で話せたことが社会人になってからも事例報告等で大変役立っている。
<p>3. 学生受入れ</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職業観を身に付けるための体験授業などに工夫を凝らし、学生募集に結び付けていった。これらの活動には学生に参加してもらってきたが、より内容の充実が必要である。 ・入学生の数が減少している。同一分野の学校が増えたという原因だけでなく、こ

	<p>れまで関係の深かった高校からの入学生も減少している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めてオープンキャンパスの体験メニューに薬局事務に特化した内容を盛り込んだ。 ・入学予定者に対して、建学の精神、校訓等の理解を深めさせる指導を行っている。また、専門学校と大学・短期大学の違いについても、学科長から指導を行った。 ・入学前指導として、保育士や幼稚園教諭の職業体験を必須としているが、イメージだけが先行し、入学後の実習において、現実の厳しさに遭遇し、憧れだけではできない仕事であることを実感して進路変更を希望する学生がいる。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・広報と協力し、在校生の成績や卒業生の就職・資格取得実績を定期的に報告、出身高校との関係強化を図り、学生募集につなげる。 ・オープンキャンパスのメニューの1/4程度薬局事務に特化した内容を盛り込んだが参加者が極めて少なかった。需要のあるドクターズブランクの内容を厚くする。 ・オープンキャンパスにおいて、DVD 映像教材を見せ、保育士・幼稚園教諭の仕事のやりがいと厳しさがイメージできるようにすることで、有意義な学生生活を送るのではないかと感じている。今後もDVDの活用を続ける。 ・介護知識・技術はもちろんのこと、介護の良さやあたたかさ等を伝えられるような機会も必要。時代の風に負けず、魅力的な職業であることや魅力的な学校、学科であることを目指す。
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・サマーショートボランティア等を通じて中学校・高校に向けて進学を啓蒙したい。高齢者施設が増え続け、人材不足の中、社会全体で養成・育成する、大切にすることを広げたい。 ・卒業生たちの人間性の豊かさ、やさしさが病院の顔になってくれており、卒業生の満足度が高い学校として認識している。高校生にうまく伝えてほしい。 ・福祉の仕事の魅力を伝えたい。現場から直接高校生に訴えかけたい。協力は惜しまない。賃金も福利厚生も改善している。伝える場が欲しい。 ・職員の子どもが本学へ進学、という事例もある。現場でも学校の良さを伝えたい。
4. 教職員組織	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学生指導や実習指導など、担任や担当が一人で抱えこまず、学科内で共有できるよう心掛けてきたが、退学者を減らすことができず、指導・対応の根本的な再検討が必要となっている。 ・教員の積極的な研修参加、地域社会との連携、学生指導が望まれる。 ・他学科の教員と実習事務手続き以外にも十分に関わっていき、情報を共有する。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・学生指導に関する職務に加え、教務上の実務、とりわけ実習関係の実務や社会人講座の実務に計画的・組織的に取り組めるよう体制を整備する。 ・学科会議や職員会議を有効に活用し、学生の課題や悩みに対して早期発見・早期対応する。とりわけ、入学直後や実習前後、長期休講前後の時期には木目細かな指導・対応を行う。 ・学科会議において、学科担当教員全員で学生の情報交換を強化する。各学生に合った指導を検討し、指導・対応を行う。 ・現場実習では卒業生による在校生指導の機会が増えた。卒業生との連携も「深めながら、産学連携教育を深める。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学外実習において、学生が相談しやすい環境を作る。担任だけでなく、実習巡回教員が相談窓口となり、事後フォローを迅速・的確に行う。また、教員同士の連携を強化し、組織全体での対応を図る。
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくり会議できる日を設けるのもよい。 ・学生と向き合う時間を増やして欲しい。 ・こまめに課題を見ていくこと、継続することが大切。 ・ネットを活用して合理的に情報共有を行って頂きたい。
5. 施設・設備等	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア関連実習機器を整備した。安全かつ効率的な活用を心掛けている。学生も授業時間外に自主トレーニングを行うなど、積極的に活用している。 ・医事コンアプリの動作環境について、旧来の OS が対象外となるため、パソコン実習室の運用変更が必要となっている。 ・昨年度の課題であったアコースティック・ピアノを設置できた。学生が自由に使用できるオルガンについては、使用方法を徹底しているが、故障が出始めている。 ・一部いたみのあった学校図書の修繕を行った。保育士や幼稚園教諭は、絵本が大切な教材であり、教材を大切に使用することを伝えることができる良い機会となった。 ・子ども心理学科併設の託児所『キッズハウスひかり』にて学生の職場体験が実現できた。外部の実習や体験では教えていただけない保育に対する細かい援助を教わることができる貴重な施設であり、今後も活用していきたい。 ・一部古くなってきた介護機器等がある。 ・パソコン実習室の稼働率が高く、卒業研究・ケアスタディー発表会準備等で台数が不足することもあった。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・学内の実習等で必要なものは導入を検討し、計画的な施設・設備の充実を心掛ける。特にパソコン実習室に関しては、他学科や社会人講座との共有が多いため、計画的な活用を調整していく。 ・オープンキャンパスでも医事コンを使用するため、環境整備については早期対応が必要。
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・現場ではパソコンを一層活用している。より高度な活用方法の検討を。 ・パソコン関連機器の導入、活用等について介護現場と共同開発等、ICT 分野の専門学校も併設している本学の社会貢献に期待したい。 ・病院の現場でも検査機器やコンピューターが多数。パソコン活用技術は事務職においても力を養成してほしい。 ・タブレットの活用機会が増えている。 ・介護ロボットについても導入や研究を一緒に考えてほしい。 ・新しい機器の導入タイミングはソフトの互換性の問題もあるので簡単には更新できないと思われる。介護現場の機器もどんどん新しくなっているが高価である。
6. 学生生活支援	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的問題や家庭環境に問題を抱える学生が増えており、教員の対応力の強化が

	<p>必要となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士修学資金を受けている学生もいるが、目的意識が希薄になる学生もあり、日々の生活での指導も必要となっている。 ・挨拶の励行、礼儀を弁えた対応ができるよう指導した。学生の手引きに則り、本学の学生として相応しい身だしなみについて、これまで以上に指導を徹底した。 ・家庭環境が不安定で心に問題を抱えている学生や、規範意識、思いやりの心が欠けている者、生活習慣、食生活の乱れている学生もみられる。 ・緊急災害時に対応するため、非常用トイレや防災備品、貯水タンクの活用方法について学内研修を実施した。また備蓄している食品・飲料水を確認した。学生本人及び家族の避難方法・時期・場所等の明確化が不十分である。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における目標の明確化と、将来像実現への指導を徹底する。 ・学生生活のカウンセリングや進路に関するキャリアカウンセリングに加え、学生に対する総合的な対応力を教員が持てるよう、教員研修を強化する。 ・個別カウンセリングだけでなく、学生との日々の関わりを深める。経済的問題を抱えている学生に対しては、奨学金等のアドバイスも行う。 ・防災対策について、市役所、地元自治体、地域企業との連携を図る。 ・緊急災害時における学生家族の避難方法・時期・場所等に関し、各家庭内で話し合いを行い、その概要を「学生指導記録」に明記する。
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 静岡駅周辺はビルが多い地区なので防災意識は低いことが予想される。防災対策については、町内会や地域企業との連携が肝要。 ・駅に近いことから帰宅困難者や観光客の一時避難等、本学の役割は大きいと考える。 ・学生が手助け・活動できるように ボランティア参加できるように意識づけを。 ・災害発生時のアクションについて共通認識を。 ・被災後、どう復帰していくのか、長期目標を想定してシミュレーションすることも必要。 ・災害対策は定期的な見直しをしてほしい
7. 管理・運営	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・学科、分野の職務と実務の効率化には組織的な改善が求められる。 ・不要になっている書籍・書類、什器備品等を廃棄し、学内の整理整頓が進んだ。 ・成績等、学生指導情報については鍵付きロッカーにて厳重に管理している。 ・電子データ化された個人情報、パスワード及び暗号化により保全。 ・個人情報保護、マイナンバー制度について学内研修を行い、学生への周知徹底を行っている。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・不要な書籍や書類等が増えないように、定期的かつ計画的に廃棄する。 ・業務効率化のため、学内へのグループウェア導入を検討する。 ・指定保育士養成施設開設後は、本学から保育士が輩出されることになるため、今まで以上に教育・運営共に向上できるよう検討を続ける。
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のリフレッシュやケアを行い、充実して仕事と向き合える仕組みを検討されたい。 ・職場環境について振り返りを。チームワーク、人の和が重要と考える。ストレス

	<p>の解消に向けて相互にカバーしあえるような仕組みを。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションが重要であり、普段から会話を多くし、管理運営を潤滑にする環境づくりを。 ・個人情報の管理は良い取り組みだし、重要だ。今後も相互にチェックし合えるような体制を維持してほしい。 ・定期的な見直しをすることで、細かいことも少しでも改善するとよい。
8. 財務	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の編成及び執行に関する規定は、寄附行為及び経理規程に定めている。 ・予算の編成は、予算単位で事業計画と予算案を策定している。 ・予算の執行にあたっては所轄する部署でチェックする体制を構築している。 ・寄附行為に基づく監査は規定に基づき行われ、その結果を理事会及び評議員会へ報告している。 ・財務情報公開規程を整備し、所管部署を定め、開示請求に対応できる体制を整えている。 ・収益事業の一つである「離職者訓練」においては講座受託価格（入札制度）が著しく低下している。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集において、学生増を図るため、広報活動に一層の重点を置く。また、産学官連携を活用しながら非18歳人口や社会人が学びやすい教育環境を整備する。 ・介護福祉士実務者研修制度及び介護職員初任者研修制度の募集において、より集客するよう広報活動を強化する。
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・募集については、本学だけでなく、介護スタッフ養成校全体での大きなテーマ。高校等も含めて幅広い情報交換を行ってほしい。マスコミの活用も検討されたい。 ・入学後の早い段階から職場研修は、現場としても歓迎したい。 ・学生募集への協力は惜しまない。一緒に働けるスタッフの輩出を是非お願いしたい。 ・実務者研修、初任者研修への取り組みは、福祉業界の成長のために大変ありがたい。

以 上